

〔学 会〕

東京女子医科大学々会第77回例会

日 時 昭和31年2月24日(金)午後2時半

場 所 東京女子医大第一臨床講堂

1. 良性食道狭窄の一手術例

(外科) 猪俣 和 仁

25才の女性、昭和30年7月29日に塩酸約30ccを嘔下して後、5日目に至り嘔下困難、逆吐を来し、唾液の通過も許さぬ程度となり、同年8月6日某病院にて胃瘻造設術を受け、これより栄養摂取して来たものであるが、昭和31年1月15日当科に入院し、同年2月7日胸腔内で狭窄部切除を施行し、食道胃吻合を行い、術後経過良好である一例を得たので報告した。

2. 所謂漿液性髄膜炎の症例について

小児科(演) 藤 本 茂 子
木 村 志 乃 婦

所謂漿液性髄膜炎は最初 Quinke 氏によつて記載された疾患で本症は古くは病原体の明瞭でない種々の原因によつて惹起せられる症状の総合概念とも言うべきものであつたが今日ではその中から良性リンパ球性脈絡髄膜炎が病原的に独立し、Coxsackie ウイルスが証明され、最近では流行性耳下腺炎の例が多く見られている。そして Fanconi はウイルス性髄膜炎の一般的特徴をそなえた髄膜炎で病原体不明のものを特発性良性単核細胞性髄膜炎と名づけている。

私どもは昭和29年と30年の2年間において経験した特発性良性単核細胞性髄膜炎と思われる三例と流行性耳下腺炎髄膜炎二例及び種痘後脳炎一例を加えて総括し報告した。

3. 子宮頸管粘液のアミノ酸組成の周期的変動に就いて

(産婦人科) 吉 田 茂 子

子宮頸管粘液は、精子貫通の重要な門戸で、特に月経周期中排卵期に分泌量最大となり、水様透明でその索引性、弾力性は高度で、粘稠度低く精子貫通に好適条件を呈し、他の時期には分泌量減少し粘稠度も高く精子貫通を妨げる。かかる周期的変動を起す頸管粘液の物理的、化学的成分が精子貫通に際して受精機転に大いに関与するものと考えられる。我々の教室では、不妊症研究の一環として頸管粘液の生化学的研究に着手し、その成分の広範な定量実験を行つているが、私はアミノ酸の分析を行い周期的変動を試みたので、茲

に報告する。

実験方法は Paperchromatographie により行つた。採取した粘液は自然乾燥標本を作り、シダ葉様結晶状態を検し秤量。遊離アミノ酸はそのまま試料とし、他は加水分解後濃縮して試料とした。遊離アミノ酸は2~5種類を分析。加水分解したものでは15種類を確認した。此等のアミノ酸を正常、炎症、妊娠、卵巢機能不全、陰分泌物の各々につき基礎体温測定しつつ周期的変動を試みた。

1) 正常例では排卵期に最低数を示し、排卵期、黄体期の順に検出数は増加し又含有率も同様である。

2) 炎症例では正常と同様の周期的変動を認めたが一般に含有率は増加する。

3) 妊娠例に於いては月例の進むに従い検出率は増加している。

4) 卵巢機能不全症に於いては、此等のアミノ酸の検出率は低く、即ち若干のアミノ酸は検出し難く、又一般にアミノ酸含有率の変動が不規則である。即ち卵巢機能不全第一度子宮発育不全患者に於いては、略正常の周期的変動を示すが、一般にその含有量は少く、無排卵性月経周期及び長期無月経患者では、その変動は不定、且不明瞭でその含有量は少い。

5) 陰分泌物に於いても正常と同様の周期的変動を示すがその含有量は大である。

4. 動物組織(犬心筋)におけるピルビン酸の船^全酸と酸化の機構について〔ビタミンB₁の活性基について〕

(生化学) 細 谷 憲 政

生物体にみられる解糖呼吸現象において、解糖過程から細胞呼吸の行われる TCA-cycle (Kveir 回路) に入る段階は、Lipman (1945) が Coenzyme-A を発見してから Lynen (1951), Ochoa (1951), Green 門下 (1952) 等によつて明らかにされて来た。著者はこの過程を主として犬心筋について観察した。その結果ピルビン酸からクエン酸を生成する過程においては現在2つの酵素、ピルビン酸酸化酵素系と縮合酵素が必要であり、前者の働く反応機構は下図の如くである。